

内藤吉之助教授略年譜・著作目録（改訂稿・第三十次補正稿）

（令和 8（2026）年 1 月 11 日（日）現在）

〔目 次〕

（作成経緯）	2
（各次改訂要旨）	3
【参考 HP】	6
【関係 HP】	9
1 はじめに	10
2 略年譜	11
3 著作目録	13
(1) 訳書・編書	13
(2) 論説その他	15
(3) 内藤吉之助教授関連著作	18
(4) 『イソラベラ』と内藤吉之助教授	25
[参考 1] 「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の件	27
[参考 2] 「国立国会図書館サーチ（開発版）の公開」の件	29
[参考 3] 「国立国会図書館のデジタル化資料」の件	29

(作成経緯)

HP 初出：(平成 19 (2007) 年 8 月 16 日改訂稿作成)
(平成 19 (2007) 年 12 月 12 日第一次補正稿作成)
(平成 19 (2007) 年 12 月 18 日第二次補正稿作成)
(平成 20 (2008) 年 1 月 10 日第三次補正稿作成)
(平成 20 (2008) 年 1 月 11 日第四次補正稿作成)
(平成 20 (2008) 年 1 月 23 日第五次補正稿作成)
(平成 20 (2008) 年 8 月 12 日第六次補正稿作成)
(平成 20 (2008) 年 8 月 19 日第七次補正稿作成)
(平成 20 (2008) 年 11 月 23 日第八次補正稿作成)
(平成 21 (2009) 年 2 月 5 日第九次補正稿作成)
(平成 21 (2009) 年 2 月 15 日第十次補正稿作成)
(平成 21 (2009) 年 3 月 18 日第十一次補正稿作成)
(平成 21 (2009) 年 3 月 31 日第十二次補正稿作成)
(平成 21 (2009) 年 11 月 15 日第十三次補正稿作成)
(平成 22 (2010) 年 9 月 15 日 (水) 第十四次補正稿作成)
(平成 22 (2010) 年 10 月 16 日 (土) 第十五次補正稿作成)
(平成 24 (2012) 年 3 月 5 日 (月) 第十六次補正稿作成)
(平成 26 (2014) 年 5 月 27 日 (火) 第十七次補正稿作成)
(平成 27 (2015) 年 2 月 10 日 (火) 第十八次補正稿作成)
(平成 29 (2017) 年 3 月 5 日 (日) 第十九次補正稿作成)
(平成 29 (2017) 年 9 月 6 日 (水) 第二十次補正稿作成)
(平成 29 (2017) 年 12 月 12 日 (火) 第二十一次補正稿作成)
(平成 30 (2018) 年 8 月 29 日 (水) 第二十二次補正稿作成)
(平成 31 (2019) 年 4 月 23 日 (火) 第二十三次補正稿作成)
(令和 2 (2020) 年 4 月 16 日 (木) 第二十四次補正稿作成)
(令和 3 (2021) 年 11 月 3 日 (水) 第二十五次補正稿作成)
(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 第二十六次補正稿作成)
(令和 4 (2022) 年 7 月 5 日 (火) 第二十七次補正稿作成)
(令和 5 (2023) 年 2 月 5 日 (日) 第二十八次補正稿作成)
(令和 5 (2023) 年 2 月 26 日 (日) 第二十九次補正稿作成)
(令和 8 (2026) 年 1 月 11 日 (日) 第三十次補正稿作成)

(各次改訂要旨)

・本著作目録は、『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録(二訂版) 一内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録(初稿) 一ローマ法・法制史学者著作目録選(第八輯)一』(上山安敏先生の序文あり。平成19(2007)年1月1日刊)所収の「内藤吉之助教授・略年譜・著作目録(初稿)」及び同「刊行の葉」(「内藤吉之助教授・略年譜・著作目録(初稿)」拾遺)を改訂したものである。

(改訂稿作成:平成19年8月16日)

・雑誌『随筆』所載関係(大正15年、昭和2年)を追加するとともに、誤植を一、二訂正した。

(第一次補正稿作成:平成19年12月12日)

・従前頁数のみを誌していた戸沢鉄彦氏「京城帝国大学創立五十周年にあたって」『京城帝国大学創立五十周年記念誌 紺碧遙かに』(京城帝国大学同窓会、非売品、昭和49年10月30日刊)109頁の表題を明示した。

(第二次補正稿作成:平成19年12月18日)

・松岡静雄氏、松岡磐木氏関係著作(平成2年刊)の件、『社会学雑誌』第25号(大正15年5月1日刊)所収書評の件、田川孝三氏『朝鮮学報』第48輯(昭和43年7月20日刊)の件を追加するとともに、誤植その他を修正した。

(第三次補正稿作成:平成20年1月10日)

・柳田国男氏関係著作(昭和63年刊)の件を追加するとともに、記載内容の全体構成を変更した。

(第四次補正稿作成:平成20年1月11日)

・『我等』所収論稿(昭和2年刊)関係記述を補正するとともに、二、三誤植を訂正した。

(第五次補正稿作成:平成20年1月23日)

・『定本 柳田國男集』、『柳田國男全集』等の件を追加するとともに、内藤先生の出身高校が第七高等学校造士館であることを示した。

(第六次補正稿作成:平成20年8月12日)

・「朝鮮総督府中枢院[編]内藤吉之助校訂『受教輯要』(中枢院版)(朝鮮総督府中枢院、昭和18年3月30日刊)」の件について補正するとともに、本稿で使用参照したHPの現状に関して言及した。

(第七次補正稿作成:平成20年8月19日)

・内藤先生の東京府立第一中学校卒業年次(明治44年)を確認した。その他誤植を一、二訂正した。また、「[参考]「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の件」を独立させて、末尾に附載した。

(第八次補正稿作成:平成20年11月23日)

・ゾーム著、久保正幡・世良晃志郎訳『フランク法とローマ法—ドイツ法史への序論—』(岩波書店、昭和17年4月15日刊)「凡例」の件を追加した。

(第九次補正稿作成:平成21年2月5日)

・中山太郎『日本巫女史』(大岡山書店、昭和5年3月20日刊。増補復刻版:パルトス社、昭和59年1月5日刊)引用の内藤先生関係文献を、「(2) 論説その他」中に「(調査中)」として記載した。

(第十次補正稿作成: 平成 21 年 2 月 15 日)

・安倍能成『我が生ひ立ち—自叙伝—』(岩波書店、昭和 41 年 11 月 28 日刊)の件等を追加した。

(第十一次補正稿作成: 平成 21 年 3 月 18 日)

・通堂あゆみ「京城帝国大学法文学部の再検討—法科系学科の組織・人事・学生動向を中心に—」『史学雑誌』第 117 編第 2 号(平成 20 年 2 月 20 日刊)の件を追加するとともに、『文章世界』、『太陽』の件につき一、二補正した。

(第十二次補正稿作成: 平成 21 年 3 月 29 日)

・岡正雄『異人その他』(言叢社、昭和 54 年 12 月 1 日刊)の件を追加するとともに、その他一、二補正した。

(第十三次補正稿作成: 平成 21 年 11 月 15 日)

・申鎮均「内藤吉之助著 朝鮮民政資料 牧民篇」の件を追加するとともに、その他〔参考〕箇所を、一、二補正した。

(第十四次補正稿作成: 平成 22 年 9 月 15 日)

・牧健二「朝鮮法制史料の刊行」『法学論叢』第 35 巻第 3 号(昭和 11 年 9 月 1 日刊)の件を追加するとともに、その他一、二補正した。

(第十五次補正稿作成: 平成 22 年 10 月 16 日)

・「国立国会図書館のデジタル化資料」(<http://dl.ndl.go.jp/>) (平成 23 年 7 月新設との由)で補正した。

(第十六次補正稿作成: 平成 24 年 3 月 5 日)

・酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』(ゆまに書房、平成 26 年 2 月 25 日刊)の件を追加した。

(第十七次補正稿作成: 平成 26 年 5 月 27 日)

・広津和郎「森れじな」関連『読売新聞』昭和 7 年 7 月末諸記事を追加した。

(第十八次補正稿作成: 平成 27 年 2 月 10 日)

・略年譜の一部を復活、掲載するとともに、関連著作の追加をした。

(第十九次補正稿作成: 平成 29 年 3 月 5 日)

・鹿島守之助氏(内藤教授の従弟)関係文献、「雑誌記事索引集成データベース(ざっさくプラス)」関係記載の一部を修正した。

(第二十次補正稿作成: 平成 29 年 9 月 6 日)

・表題「内藤吉之助教授(1894~1946)著作目録」を「内藤吉之助教授略年譜・著作目録」に変更するとともに、田鳳徳著、渡辺 学・李丙洙訳『李朝法制史』(北望社、昭和 46 年 2 月 25 日刊)関係記事で著作「論説その他」、関連著作を追加した。

(第二十一次補正稿作成: 平成 29 年 12 月 12 日)

・久保正幡先生関連文献、『法史学研究会会報』第 21 号(岡野誠先生退休記念号、平成 30 年 3 月 26 日刊)所載「内藤吉之助教授について—略年譜、著作目録抄、その他—」その他の件を追加した。

(第二十二次補正稿作成: 平成 30 年 8 月 29 日)

・冒頭レイアウトを変更するとともに、稲福日出夫「(資料)佐喜眞興英の大学在学時の同窓生たちに関する覚え書—内藤吉之助、中川善之助、奥野彦六郎などの点描—」『南島文化』第40号(沖縄国際大学南島文化研究所紀要、平成30(2018)年3月30日刊)その他を追加した。

(第二十三次補正稿作成:平成31年4月23日)

・世良晃志郎教授の城大関連事項に言及した「高橋幸八郎教授座談会」『社会科学研究』第24巻第2号(昭和47年刊)の件を追加した。阪本尚文先生の御示教に拠る。厚く御礼申し上げます。

(第二十四次補正稿作成:令和2年4月16日)

・レイアウトを全面変更するとともに、一部補正した。

(第二十五次補正稿作成:令和3年11月3日)

・一部補正し、『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選第15輯—』(令和4(2022)年4月1日刊)に収録した。

(第二十六次補正稿作成:令和4(2022)年4月1日)

・一部補正した。

(第二十七次補正稿作成:令和4(2022)年7月5日)

・令和5(2023)年1月26日(木)に『藤嶺文学』第17号(昭和34年刊)を漸く実見できたことから、関係記載を修正するとともに、全体にわたり一部補正した。

(第二十八次補正稿作成:令和5(2023)年2月5日)

・鶴飼信成博士「京城の八月十五日」『法学者・法律家たちの八月十五日』(日本評論社、令和3(2021)年7月15日)の件を追加するとともに、国立国会図書館デジタルコレクション収蔵書URLをできるだけ記載した。

(第二十九次補正稿作成:令和5(2023)年2月26日)

・全体にわたり一、二補正するとともに、本稿が電子版であることに鑑み、今回より黒、赤二色版に変更した。

(第三十次補正稿作成:令和8(2026)年1月11日)

【参考 HP】(令和 3 年 11 月 15 日全面差替、同年 12 月 30 日、令和 4 年 7 月 5 日、同 5 年 2 月 5 日、同 8 年 1 月 11 日各一部修正)

*法制史学会 HP (平成 14 (2002) 年 10 月 5 日公開、平成 24 (2012) 年 4 月 1 日移転)

〈<http://www.soc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

(新) 〈<https://www.jalha.org/>〉

・〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

*全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・「法制史コーナー」 所載項目一覧」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf>〉

・本 HP 別稿: 宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・本 HP 本稿: 三浦周行博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 牧健二博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/makikenji001.pdf>〉

・本 HP 本稿: 内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 瀧川政次郎博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

- ・本 HP 別稿: 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf>
- ・本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>>
- ・本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>>
- ・本HP別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>>
- ・本HP別稿: 戸水寛人博士著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>>
- ・本HP別稿: 春木一郎博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>>
- ・本HP別稿: 原田慶吉教授略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>>
- ・本HP別稿: 船田享二博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>>
- ・本HP別稿: 田中周友博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>>
- ・本HP別稿: 栗生武夫先生略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>>
- ・本 HP 別稿: 「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf>
- ・本 HP 別稿: 「『栗生武夫先生隨筆拾遺』作成の思い出
 —『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf>
- ・本 HP 別稿: PDF 版『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf>
- ・本HP別稿: 西本穎博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>>
- ・本HP別稿: 久保正幡博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>>
- ・本HP別稿: 井上周三教授関係資料抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>>
- ・本HP別稿: 上山安敏先生著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>>
- ・本HP本別稿: 笥克彦博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>>

- ・本HP別稿: 近藤英吉博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf>〉
- ・本HP別稿: 増田福太郎博士関係資料一斑
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本HP別稿: 山崎丹照先生著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本HP別稿: 戴炎輝博士略年譜・著作目録
 〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉
- ・本HP別稿: 末松謙澄博士略年譜及び著作目録（令和8（2026）年1月11日（日）追加）
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/suematsu001.pdf>〉

* 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（令和5（2023）年12月31日閉館）

- 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉
- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）
 〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉
 （註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

.....

* 先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和6（2024）年6月5日（水、公開公表日）に再開された。（令和8（2026）年1月11日追加）

- 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉

・梅雨空文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

* 「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」 ⇒爾後逐次改訂 ⇒（最新版：令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

（註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉））に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

【関連 HP】（令和 5（2023）年 2 月 5 日差替え）

- ・法制史学会：〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館：〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
（追加：令和 4（2022）年 12 月 12 日）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html〉
「ホーム>新着情報>ニュース>「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアル
します（令和 4 年 12 月 21 日）
「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令
和 4 年 12 月 21 日）」
国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、国立国会図書館デジタルコレクションをリニ
ューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するととも
に、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年
5 月 19 日開始）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles
の CiNii Research への統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉
- ・朝日新聞クロスサーチ（令和 4（2022）年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル）
〈<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>〉
- ・ヨミダス歴史館
〈<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>〉
- ・毎索（マイサク）
〈<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>〉

1 はじめに

内藤吉之助教授（1894～1946）邦訳のフリードリヒ・エンゲルス（1820～1895）『家族・私有財産及び国家の起源』（れしな荘、大正 11 年 1 月 10 日刊。復刻：彰考書院、昭和 22 年 2 月 25 日刊）は、同書の本邦初翻訳として著名であるが、教授の御名前に初めて接したのは、その昔さる先生の外国法（法史・独）の講義を受講した時である。それは、オイゲン・エールリッヒ（1862～1922）『Grundlegung der Soziologie des Rechts』（『法社会学の基礎理論』、1913 年刊）の講読であったが、同書が大正時代に日本に紹介された際に出た多くの論文の一つに、内藤教授の「エールリッヒの法律社会学」『国家学会雑誌』第 34 巻第 4 号（大正 9 年 4 月刊）があることを、この時教えていただいたことによる。その後、内藤教授に上記エンゲルスの『家族・私有財産及び国家の起源』の邦訳があることを知り得たが、特に関心をもつようになったのは、平成 3（1991）年頃、知人から、船田享二博士（1898～1970）の全著作、特に京城時代のものを調べてほしいと依頼され、京城帝国大学関係者関連の様々な書籍に当たるようになってからである。

内藤教授は、戦後朝鮮から引き揚げてまもなく逝去されたとのことであるが、追悼録とか著作目録の類は出ていないと思われる。こうした中、まず参考となるのは、もとより昭和 22（1947）年 2 月に復刻された上記『家族・私有財産及び国家の起源』（彰考書院、昭和 22 年 2 月 25 日刊）に付けられた尾高朝雄博士（1899～1956）の序及び世良晃志郎教授（1917～1989）のあとがきである。これと同書の著者跋とで、教授の学問的なことはかなり判明するが、「森れじな」で有名なお若き日のことや御専門の朝鮮法制史研究のことについては、不明なことも多い。なお、翌昭和 23 年春に刊行された世良教授の処女作『封建制成立史序説』（法制史叢書第 2 冊、彰考書院、昭和 23 年 4 月 10 日刊）は、教授の恩師としての故内藤教授に捧げられている。

このため、個人的なことでは、内藤教授の従弟に当たる鹿島守之助氏（1896～1975、旧姓永富氏、鹿島氏御尊父と内藤教授御母堂が兄妹との由。）の多くの回想録がまず挙げられる。ここでは、同氏に思想的影響を与えた人物として内藤教授のことに言及され、明治末期に中学生時代の教授が「森れじな」（森れしな？）の名により文芸投稿で大きな評価を得られていたことがわかる。

この他では、教授の令弟内藤進一郎氏（？～1958、大正 9（1920）年 3 月東京美術学校本科卒業）¹の御逝去を悼んだ高橋俊人氏（としんど、当時藤嶺学園藤沢高等学校教諭、歌人、『藤嶺文学』創刊者、1898～1976）²「内藤先生のことども一法輪院進阿即生居士に一」『藤嶺文学』第 17 号（藤嶺学園藤沢高等学校³文芸部、昭和 34 年 3 月 1 日刊。平成 18（2006）年秋復刻予定との由で、その前にネットに掲載されたようである⁴。）が、極め

¹ 同氏につき〈<http://db.am.geidai.ac.jp/search.cgi?class=14;start=1601>〉参照。（平成 21 年 2 月 5 日追加）⇒（平成 27 年 2 月 10 日補正）〈<http://jmapps.ne.jp/geidai/>〉参照。

² 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E6%A9%8B%E4%BF%8A%E4%BA%BA>〉（高橋俊人）

³ 藤嶺学園藤沢中学校・高等学校：〈<https://www.tohrei-fujisawa.ed.jp/introduction/>〉

⁴ 〈<http://sky.geocities.jp/ityou2/bungaku.html>〉：本 HP は、かなりの期間公開されていたが、平成 20（2008）年 8 月現在では削除されているようである。（平成 20 年 8 月 19 日追加。平成 21 年 3 月 18 日

て貴重であり、同稿のネット掲載により、様々なことを知り得る⁵。そこでは、内藤教授の御尊父内藤久三郎氏のことを「内藤吉之助」と誤記しているが、文中の「兄さん」が内藤吉之助教授その人であり、特に柳田國男（1875～1962）、松岡静雄（柳田氏令弟、1877～1936）両氏や鹿島守之助氏との関係等若き日の内藤教授研究の手がかりを与えてくれる。

また、昭和 17（1942）年秋に城大に出講された久保正幡先生（1911～2010）も内藤教授の思い出をしばしば語ってみえたとお聞きする⁶。

内藤教授の著作は、城大赴任以前の論稿の一部がやや一般的でない雑誌に収録されていることもあって、その目録作成は従来やや難しい面があったが、幸いにも、最近「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」（皓星社）がネット公開〈<http://www.annex-net.jp/ks1/>〉された⁷ので、これらに基づき、取りあえずのものを作成してみた。ただ、教授のことについては、なお今後の課題であるといわざるを得ず、大方の御示教を切に願うものである。

現在同じ状態にある。）（以下令和 5（2023）年 2 月 5 日追加）『藤嶺叢書 1 藤嶺藤沢物語』（藤嶺学園藤沢中学校・高等学校、平成 20（2008）年 9 月 1 日刊）「第 4 章 時を超える短歌の響き——七月「短歌コンクール応募」（37～45 頁）中に「歌人・教諭と『藤嶺文学』」、「半世紀の時を経て蘇った『藤嶺文学』」の記述があり、平成 18（2006）年 10 月に『卒業から半世紀余 いま再び甦る 藤嶺文学 高橋俊人先生追悼記念 藤嶺文学 4・5・6 復刻特集』（银杏の会編纂委員会、全 76 頁）と題する『藤嶺文学』の一部復刻版が刊行されたことを伝えている。同書は未見であるが、「復刻版『藤嶺文学』。昭和 20 年代の高橋俊人教諭と教え子の作品等を掲載」（41 頁）とあるので、高橋俊人氏の『藤嶺文学』第 17 号（昭和 34 年刊）所収文は収載されていないと思われる。

⁵ 令和 5（2023）年 1 月 26 日（木）漸く原本を見る機会を得た。（令和 5（2023）年 2 月 5 日追記）

⁶ 久保先生自編の『久保正幡略年譜・主要著作目録』（製作：洋販、平成 10 年 10 月 20 日刊）には「昭和 17（1942）年 6 月 30 日 本学年度[昭和 17 年度学年暦はたしか昭和 17 年 4 月～9 月の間であるので、ここの学年暦としては昭和 18 年度のことか?] 京城帝国大学法文学部講師を委嘱され、10 月 18 日から翌月 19 日まで京城にて西洋法制史の集中講義を果たした。」（5 頁）とある。この時、もとより内藤吉之助教授とも会っておられる。なお、久保先生（報告）「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」（法制史学会東京部会第 170 回例会、平成 7（1995）年 12 月 26 日（火）午後、於早稲田大学）の件も参照。（平成 30 年 8 月 30 日追加）

⁷ 本「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」については、従前はこの註記で誌したが、今回、独立させ、本稿末尾に、「[参考]「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の件」として附載した。（平成 20 年 11 月 23 日修正、[参考] 新設）

（追記）その後「雑誌記事索引集成データベース（ざっさくプラス）」として公開されている。

（https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=http%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F）（平成 29 年 9 月 6 日追加）

2 略年譜

(第18次補正稿(平成27(2015)年2月10日作成)までは省略していたが、第19次補正稿(平成29(2017)年3月5日作成)で一部を掲載した。平成29年3月10日追加)

明治27(1894)年7月5日 兵庫県に出生

(鹿島守之助(1896~1975、旧姓永富、従弟)『永富家』(鹿島研究所出版、昭和43年11月1日刊)序5頁参照。)

明治44(1911)年3月 東京府立第一中学校卒業

(高橋俊人(1898~1976)前掲「内藤先生のことども一法輪院進阿即生居士に一」『藤嶺文学』第17号(藤嶺学園藤沢高等学校文芸部、昭和34年3月1日刊)参照。「内藤先生」とは令弟内藤進一郎氏(?~1958、大正9(1920)年3月東京美術学校本科卒業)のこと。)

(鹿島守之助(1896~1975)「私の履歴書」『私の履歴書 第22集』(日本経済新聞社、昭和39年11月25日刊)221頁で内藤教授のことに言及、その後、同『私の履歴書』(鹿島研究所出版会、昭和39年12月20日刊)11、12頁に再録。同稿は、更に『私の履歴書 経済人7』(日本経済新聞社、昭和55年9月2日刊)281頁、『私の履歴書 昭和の経営者群像2』(日本経済新聞社、平成4年9月25日刊)92頁等に転載されている。また、鹿島守之助『創造の生活』(鹿島研究所出版会、昭和43年6月刊)、『鹿島守之助経営論選集第13巻 創造の生活』(鹿島出版会、昭和50年2月20日刊)18頁にも再録。)

(木村毅(1894~1974)「文学少年としての鹿島さん」『鹿島守之助追懐録』(鹿島守之助追懐録刊行委員会編集、昭和52年12月3日刊)84~87頁参照。「森れじな」のことにも言及。)

大正4(1915)年7月 第七高等学校造士館卒業(第12回卒業171名、第一部独法科)

大正8(1919)年7月 東京帝国大学法学部卒業

同年10月3日 東京帝国大学法学部助手(その後助手をやめて大学院学生)(平成30年8月30日「大学院学生」の件追加)

昭和3(1928)年 京城帝国大学法文学部教授

年月不詳 欧米に出張(在外研究)

昭和9(1934)、10(1935)年頃 朝鮮総督府中枢院嘱託として『経国大典』等李朝期法典を校訂刊行。中枢院嘱託はその後も継続か。

昭和18(1943)年3月31日~昭和20(1945)年3月31日 京城帝国大学法文学部長(昭和18年時で正五位勲四等。『京城帝国大学創立五十周年記念誌 紺碧遙かに』(京城帝国大学同窓会、非売品、昭和49年10月30日刊)口絵に内藤教授の小照あり。)

この頃の住所: 京城府旭町2ノ49

昭和20(1945)年末 朝鮮より引揚(下記尾高朝雄博士「序」)

昭和21(1946)年1月13日 急逝(下記尾高朝雄博士「序」)

昭和22(1947)年2月25日 エンゲルス著、内藤吉之助訳『家族・私有財産及び国家の起源』(彰考書院、昭和22年2月25日刊)が復刻される。(再版:昭和22年9月20日刊、三版:昭和24年?月?日刊 四版:昭和25年6月20日刊。大正11年邦訳の復刻。尾

高朝雄博士「序」、世良晃志郎教授「あとがき」あり。)

(依拠資料: 国立国会図書館次世代デジタルライブラリー、『昭和人名辞典』第4巻(日本図書センター、昭和62年10月5日刊)朝鮮72頁(同書は『大衆人事録 第14版 外地満・支 海外篇』(帝国秘密探偵社、昭和18年11月22日刊)の復刻本)、『朝鮮人事興信録』(朝鮮人事興信録編纂部、昭和10年4月1日刊)329頁、『家族・私有財産及び國家の起源』(エンゲルス著、内藤吉之助訳、彰考書院、昭和22年2月25日刊)尾高朝雄序、下記岩野英夫教授御論稿、『東京府立第一中学校創立五十年史』(東京府立第一中学校、昭和4年10月20日刊)巻末の「如蘭会員及現在生徒名簿」45頁、『第七高等学校造士館同窓会会員名簿 平成2年』(七高同窓会、平成2年10月25日刊)101頁等に拠る。)

3 著作目録

*「国立国会図書館サーチ」〈<http://iss.ndl.go.jp/>〉参照。（平成 24 年 3 月 5 日追加）

(1) 訳書・編書

大正 11 (1922) 年

・フリードリヒ・エンゲルス著 内藤吉之助訳『家族・私有財産及び国家の起源 リュイス・エチ・モルガンの研究に因みて』（仮綴、本綴、れしな荘 発売 有斐閣、大正 11 年 1 月 10 日刊）（エンゲルス：1820～1895、モルガン：1818～1881）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1907635/1/1>〉（令和 5 (2023) 年 2 月 26 日追加）

昭和 9 (1934) 年

・朝鮮総督府中樞院[編] 内藤吉之助校訂『経国大典』（中樞院版）（朝鮮総督府中樞院、昭和 9 年 10 月 25 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1232807/1/1>〉（令和 5 (2023) 年 2 月 26 日追加）

【参考】（nacsis wecat による。）経国大典註解 / [(李朝) 崔恒等原編 ; 田川孝三註解]: 檀國大學校附設 東洋學研究所, 1979.11 檀國大學校出版部 395p ; 22cm. -- (東洋學叢書 ; 第 7 輯) 注記: 影印版 ; 底本: 清州刊本 (朝鮮學報第 48 輯) ; 解説: 車聞燮 別タイトル: 経国大典註解 著者標目: 崔恒 (1408~1474) 田川孝三 (1909~1988)

昭和 10 (1935) 年

・朝鮮総督府中樞院[編] 内藤吉之助校訂『続大典』（中樞院版）（朝鮮総督府中樞院、昭和 10 年 3 月 25 日刊）（第 2 版: 昭和 17 年刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1224844/1/1>〉（令和 5 (2023) 年 2 月 26 日追加）

・朝鮮総督府中樞院[編] 内藤吉之助校訂『大典続録及註解』（中樞院版）（朝鮮総督府中樞院、昭和 10 年 7 月 5 日刊）（第 2 版: 昭和 12 年刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1224951/1/1>〉（令和 5 (2023) 年 2 月 26 日追加）

【参考】牧健二 (1892~1989) 「〔批評と紹介〕朝鮮法制史料の刊行」『法学論叢』第 35 卷第 3 号 (昭和 11 年 9 月 1 日刊) 〔批評と紹介〕128~131 頁 (平成 22 年 10 月 16 日追加)

【参考】田川孝三 (1909~1988) 「清州刊本経国大典註解について」『朝鮮学報』第 48 輯 (昭和 43 年 7 月 20 日刊) 152、153、165 頁 (追記: 平成 20 年 1 月 10 日)

田川孝三氏につき、山内弘「田川孝三先生の御逝去を悼む」『東洋文庫書報』第 20 号 (1988) (財東洋文庫、平成元年 3 月 24 日刊) 1-5 頁参照。（平成 20 年 1 月 17 日追加）

昭和 17 (1942) 年

・内藤吉之助編著『朝鮮民政資料 牧民篇』（編著兼発行印刷人内藤吉之助、昭和 17 年 1 月 20 日刊）434 頁、23cm

（註: nacsis wecat による。復刻: 朝鮮民政資料 牧民篇 / [内藤吉之助編著] 以文社、1977 注記: 原本の出版事項: 京城 : 内藤吉之助、昭和 17 年 1 月 (1942.1)、日本学術振興会

補助出版；原本奥付の標題表記：朝鮮民政資料牧民篇；韓国語による参考解説（以文社編輯室、1977.5）あり。別タイトル：民政資料（牧民篇）；朝鮮民政資料牧民篇；朝鮮民政資料：牧民篇）

【書評】申鎮均「内藤吉之助著 朝鮮民政資料 牧民篇」『社会学研究』（日本社会学会）第1号（昭和19年6月刊??）（未見。皓星社「雑誌記事索引集成データベース」に拠る。申鎮均は、J.S.バーデス著『北京のギルド生活』（生活社、昭和17年刊）の訳者か。大空社復刻本（平成10年5月刊）あり。）

〈<http://books.livedoor.com/item/1126839>〉（平成22年9月12日追加）

昭和18（1943）年

・朝鮮総督府中枢院[編]内藤吉之助校訂『受教輯要』（中枢院版）（朝鮮総督府中枢院、昭和18年3月30日刊）（原本未見、復刻本実見（平成20年8月19日修正）。）

（註1 nacsis webcatによる。受教輯要 / 朝鮮総督府中枢院編 [京城]：朝鮮総督府中枢院、1943.3、508p；23cm 著者標目：朝鮮総督府中枢院）

（註2：復刻：明治大学図書館所蔵本による。標題及び責任表示：受教輯要 / 朝鮮総督府中枢院|編 内藤吉之助|校訂||ジュキョウ シュウヨウ 出版・頒布事項：ソウル：正文社、1984.2.20 形態事項：508p；23cm その他の標題：RM:Shoujiao jiyao 注記：影印版：原本は1943年刊の（各司受教）（受教輯録）（新補受教輯録）影印したもの 本文言語コード：中国語）

（註3：受教：朝鮮の歴代の国王がその時々が必要に応じて立法した王命法規、歴代の国王がその時々裁可した有司の上啓文。富谷至編著『東アジアの死刑』（京都大学学術出版会、平成20年2月25日刊）116、184、186頁参照。）（平成20年8月19日追加）

昭和22（1947）年

・エンゲルス著；内藤吉之助訳『家族・私有財産及び国家の起源』（彰考書院、昭和22年2月25日刊、再版：昭和22年9月20日刊、三版：昭和24年?月?日刊 四版：昭和25年6月20日刊）（大正11年邦訳の復刻。尾高朝雄博士の「序」、世良晃志郎教授の「あとがき」あり。尾高博士「序」によれば久保正幡教授、世良晃志郎助手（当時、1917～1989）が協力して若干の修正を加えたとあり、世良「あとがき」によれば大部分は世良教授が加筆したとある。ちなみに、世良教授は内藤教授のことを「私の恩師、故内藤吉之助先生」といっている⁸。

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1061870/1/1>〉（令和5（2023）年2月26日追加）、

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/3023283/1/149>〉（令和5（2023）年2月26日追加）

⁸「座談会 経済史研究とその国際交流—社会科学研究所25年間の回顧とともに—語り手 高橋幸八郎、聞き手 稲本洋之助、潮見俊隆他」『社会科学研究』第24巻第2号（高橋幸八郎教授還暦記念号、昭和47年刊。高橋幸八郎：1912～1982）154頁に拠れば、世良教授は戦前城大赴任が決まっていたが軍務のため赴任できずに終戦に至った由（阪本尚文先生の御示教に拠る。）であり、また、久保正幡先生は御生前本件につき昭和17（1942）年秋に同大に集中講義に行かれたが世良教授の人事問題折衝もこの時の用務であったといわれていたと仄聞する（註3参照。）。（令和2（2020）年4月16日追加）

(2) 論説その他

明治 43 (1910) 年

・『文章世界』投稿欄（主として「文叢」）にあるもの（紅野敏郎（1922～2010）編『文章世界総目次・執筆者索引』（近代文学館、マイクロ版、製作・発売：八木書店、昭和 61 年 2 月 28 日刊、（明治 39 年 3 月（創刊号）～大正 10 年 12 月（改題「新文学」終刊号））290 頁の「投稿者索引：投稿者 森れじな」に拠る。）

第 5 巻第 4 号（明治 43 年 3 月 15 日刊、3 箇所）、第 5 巻第 5 号（2 箇所）、第 5 巻第 6 号（1 箇所）、第 5 巻第 7 号（1 箇所）、第 5 巻第 8 号（1 箇所）、第 5 巻第 10 号（6 箇所）、第 5 巻第 11 号（2 箇所）に投稿ありし由。うち、原本目次に題名の記載あるものは、以下のとおり。※は『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』第 54 巻（文芸編）（大空社、平成 6（1994）年 11 月刊）にも収録。

※（小説）中学生の手紙 文章世界（博文館）第 5 巻第 4 号（明治 43 年 3 月 15 日刊）218～221 頁

（公開状）夏目漱石先生に（夏目漱石：1867～1916） 文章世界第 5 巻第 6 号（明治 43 年 5 月 1 日刊）

（評論文）自由劇場第二回試演、（長詩）昼寝、（はがき文）返事、（書簡文）浜一に与ふ 文章世界第 5 巻第 10 号（明治 43 年 8 月 1 日刊）

明治 44 (1911) 年

・『文章世界』第 6 巻第 2 号（3 箇所）、第 6 巻第 3 号（2 箇所）、第 6 巻第 5 号（2 箇所）、第 6 巻第 8 号（1 箇所）、第 6 巻第 9 号（1 箇所）、第 6 巻第 10 号（明治 44 年 7 月 15 日刊、2 箇所）に投稿ありし由。うち、原本目次に題名の記載あるものは、以下のとおり。※は『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』第 54 巻（文芸編）（大空社、平成 6（1994）年 11 月刊）にも収録。

（書簡文）連中に与ふ 文章世界第 6 巻第 2 号（明治 44 年 1 月 15 日刊）102～103 頁（一等、賞金 4 円、姫路市坊主町 7 内藤方 森れじな（この部分：平成 21 年 3 月 31 日追加））

※（小説）若葉の枝 文章世界第 6 巻第 5 号（明治 44 年 4 月 1 日刊）214～215 頁（秀逸）

（小説）鍾 文章世界第 6 巻第 8 号（明治 44 年 6 月 1 日刊）215～217 頁（佳作）

（小説）曙光青葉蔭 文章世界第 6 巻第 9 号（明治 44 年 7 月 1 日刊）218～219 頁（佳作）

・中学生（名義：森れしな） 太陽（博文館）第 17 巻第 8 号（明治 44 年 6 月 1 日刊）（第 9 回懸賞小説）205-214 頁（ここでは「れしな」である。「れじな」との差異は不明。末尾に、「作者住所 牛込区新小川町 2-2 松岡宅」とある。松岡静雄氏宅か。（この部分：平成 21 年 3 月 31 日追加））。なお、『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』第 5 巻（総合編）（大空社、平成 5（1993）年 5 月 22 日刊）131、132 頁も参照。

（第 9 回懸賞小説：島崎藤村（1872～1943）選で、森れしな「中学生」は、常夏「親子」とともに佳作（謝金 50 円）となる。島崎藤村「募集小説を読む」（228、229 頁）：「理解力に富んだ作者だといふことを思はせる。あるひは、その特色は早く事物を看取せしめ

て、作者をして長く芸術の人たらしめないかも知れない。」) ⇒ (平成 27 年 2 月 10 日追加) 「(3) 内藤吉之助教授関連著作 昭和 7 (1932) 年」分参照。

(追加)

『太陽』懸賞小説及『脚本』当選作一覧 (第 1 回～第 10 回、明治 43 年/1910 年度～明治 44 年/1911 年度) 第 9 回 (選考委員: 島崎藤村) (平成 30 年 8 月 30 日追加)

<http://prizesworld.com/prizes/novel/taik.htm>

大正 9 (1920) 年

- ・法の本質につきて 国家学会雑誌第 34 巻第 2 号 (大正 9 年 2 月刊) 119～122 頁
- ・エーレルリッヒの法律社会学 国家学会雑誌第 34 巻第 4 号 (大正 9 年 4 月刊) 109～117 頁 (註: エーレルリッヒ: 1862～1922)
- ・(書評) 本庄法学士の『経済史研究』 国家学会雑誌第 34 巻第 7 号 (大正 9 年 7 月刊) 115～117 頁 (註: 本庄栄治郎 (1888～1973) 『経済史研究』 (弘文堂書房、大正 9 年刊))
- ・ロシア労農共和国の委員会制度 国家学会雑誌第 34 巻第 9 号 (大正 9 年 9 月刊) 134～138 頁

大正 10 (1921) 年

- ・文化現象としての法律～比較法学の序論 (コーラー) 国本第 1 巻第 2 号 (国本社、大正 10 年 2 月 1 日刊) 74～94 頁 (邦訳。ヨーゼフ・コーラー: 1849～1919。「国立国会図書館のデジタル化資料」<http://dl.ndl.go.jp/>) に拠る。) (平成 24 年 3 月 5 日追加)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1539478/1/1> (43～53 齣) (令和 5 年 2 月 26 日追加)

- ・(書評) (新刊紹介) 三浦文学博士著「国史上の社会問題」 国家学会雑誌第 35 巻第 2 号 (大正 10 年 2 月 1 日刊。三浦周行: 1871～1931) 125～127 頁 (令和 5 (2023) 年 2 月 5 日追加)

大正 13 (1924) 年

- ・歌垣の源流 (上) 社会学雑誌第 2 号 (大正 13 年 6 月 1 日刊) 47～67 頁 (註: 社会学雑誌: 日本社会学会、大正 13 年 5 月創刊号刊行)
- ・歌垣の源流 (下) 社会学雑誌第 3 号 (大正 13 年 7 月 1 日刊) 45～69 頁
- ・歌垣補考 社会学雑誌第 4 号 (大正 13 年 8 月 1 日刊) 90 頁

大正 14 (1925) 年

- ・タイヤル人の社会編制 社会学雑誌第 12 号 (大正 14 年 4 月 1 日刊) 18～39 頁 (註: タイヤル人の社会編制 (1) に該当)
- ・タイヤル人の社会編制 (2・完) 社会学雑誌第 14 号 (大正 14 年 6 月刊) 48～79 頁

大正 15/昭和元 (1926) 年

- ・(書評) (紹介批評) 松岡静雄著『太平洋民族誌』 社会学雑誌第 21 号 (大正 15 年 1 月 1 日刊) 104、105 頁 (註: 松岡静雄 (1877～1936) 『太平洋民族誌』 (岡書院、大正 14 年 10 月刊)、文中で自身を「著者 (松岡氏) の不肖な一弟子」 (104 頁) という。) (註記補正: 平成 20 年 1 月 10 日)
- ・(書評) (紹介批評) 鳥居龍蔵『人類学上より見たる我が上代の文化』第一巻 社会学雑誌第 25 号 (大正 15 年 5 月 1 日刊) 93～96 頁 (註: 鳥居龍蔵 (1870～1953) 『人類学

上より見たる我が上代の文化』第一卷（叢文閣、大正 14 年 10 月刊）（追記：平成 20 年 1 月 10 日）

・穂積陳重博士の日本法学に於ける意義 社会学雑誌第 26 号（大正 15 年 6 月 1 日刊）18～34 頁（註：本号は穂積陳重博士（1855～1926.4.7）の追悼記念号、「本号の編輯に就いて」中に、「……………更らに戸田助教授が社会学的立場に於いて（戸田貞三（1887～1955）「故穂積陳重博士の社会学説」）、内藤学士が法学的立場に於いて、何れも故先生の学績を偲ばれたる、……………」とある。）（註記補正：平成 20 年 1 月 10 日）

・児戯と法制史 民族（民族発行所刊）第 1 卷第 5 号（大正 15 年 7 月刊）108～112 頁
・浜麦 随筆（人文会出版部刊）第 1 卷第 5 号（10 月号、大正 15 年 10 月 1 日刊。末尾に「15 年 8 月末日」の記載あり。）6～8 頁（同号 95 頁「本号執筆人名録」：【内藤吉之助】法学士。法制史専攻「れじな」の雅号あり。（1）エンゲルスの翻訳書あり。）（追記：平成 19 年 12 月 12 日）

・（書評）日本法制史の二収穫 民族第 2 卷第 1 号（大正 15 年 11 月刊）137～140 頁（註：書評：瀧川政次郎（1897～1992）『法制史上より観たる日本農民の生活 律令時代 上』（同人社書店、大正 15 年 6 月刊）、穂積陳重（1855～1926）『実名敬避俗研究』（刀江書院、大正 15 年 6 月刊））

昭和 2（1927）年

・エンゲルスの家族史論 我等（我等社刊）第 9 卷第 1 号（奥付：大正 15 年 12 月 25 日印刷納本、大正 16（昭和 2）年 1 月 1 日刊）（「家族制度研究」の項目：42～50 頁）（覆刻本：『我等（32）』（日本社会運動史料（機関紙誌篇）、法政大学出版局、昭和 59 年 6 月 20 日刊。通し頁 160～168 頁。老川寛（1930～）監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇 第 4 卷 家族・家族制度史（1）』（クレス出版、平成 12 年 5 月 25 日刊）594～602 頁に再録。）（覆刻本の件追加：平成 20 年 1 月 23 日）

・日本原始法に於ける財物の首章 史学（三田史学会）第 6 卷第 3 号（昭和 2 年 9 月刊）1～66 頁

・現時活躍せる論客に対する一人一評論 長谷川万次郎氏（如是閑のこと、1875～1969）随筆（人文会出版部刊）第 2 卷第 10 号（10 月特輯号 現論壇批判号、昭和 2 年 10 月 1 日刊。）41 頁（追記：平成 19 年 12 月 12 日）

昭和 12（1937）年

・経国大典の難産 文宗元年辛未（1451）～成宗元年庚寅（1470） 『京城帝国大学法学会論集 第 9 冊 朝鮮社会法制史研究』（岩波書店、昭和 12 年 5 月 15 日刊）129～256 頁（1～128 頁）（文宗：1414～1452、成宗：1457～1497）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1145786/1/15>〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

【参考】田川孝三（1909～1988）「京城帝国大学法文学部と朝鮮文化」『京城帝国大学創立五十周年記念誌 紺碧遙かに』（京城帝国大学同窓会、非売品、昭和 49 年 10 月 30 日刊）155、156 頁

昭和 15（1940）年

・暗行御史 『国史辞典 1』（富山房、昭和 15 年 2 月 11 日刊）252～253 頁（田鳳徳著、

渡辺学・李丙洙訳『李朝法制史』（北望社、昭和46年2月25日刊）70頁参照。富山房刊『国史辞典』（全八巻予定）は戦争のため第1～4巻のみ刊行されて中断との由）（平成29年12月12日追加）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/3431608/1/3>〉（142齣）（令和5（2023）年2月26日追加）

（調査中）

・喪かり考 『史学』第3巻第7号（中山太郎（1876～1947）『日本巫女史』（大岡山書店、昭和5年3月20日刊。増補復刻版：パルトス社、昭和59年1月5日刊）262頁に拠る。ただし、慶應義塾大学文学部内三田史学会の『史学』には第3巻第7号は存在せず、また、その頃の同誌には、「喪かり考」は掲載されていない。しからば、ここにいう『史学』第3巻第7号とは何か?。）（平成21年2月15日追加）

・前掲中山太郎『日本巫女史』324頁〔註3〕（本文314頁関連）は、内藤教授が物部氏や古代の戦争関係について『宗教研究』に掲載したことを記しているが、表題及び掲載誌巻号数が特定されておらず、現在調査中である。（平成21年2月15日追加）

(3) 内藤吉之助教授関連著作

昭和3(1928)年

- ・『京城帝国大学一覽』(昭和3年～) 京城帝国大学(『日本植民地教育政策資料集成(朝鮮編)』第45巻(龍溪書舎、平成元年3月刊)に『京城帝国大学一覽(昭和8年)』(昭和8年8月31日刊)、『同(昭和16年)』(昭和16年9月30日刊)の復刻あり。)

昭和4(1929)年

- ・『東京府立第一中学校創立五十年史』(東京府立第一中学校、昭和4年10月20日刊)(巻末に「如蘭会員及現在生徒名簿」あり。同45頁に「明治44年卒業内藤吉之助 法学士 京城大学教授」とあり。)(追記:平成20年11月23日)

昭和7(1932)年(本年分:平成27年2月10日追加)

- ・広津和郎(1891～1968)「随感随想(二) 青い柳」『読売新聞』昭和7年3月29日(火)朝刊4頁(「森れじな」の件に言及)
- ・広津和郎「随感随想(三) [島崎] 藤村氏の眼識」『読売新聞』昭和7年3月30日(水)朝刊4頁(「森れじな」の件に言及) ⇒上記「3 著作目録 (2) 論説その他」中「明治44(1911)年」分参照。
- ・「けふ大洋丸の客」『読売新聞』昭和7年3月30日(水)夕刊2頁(3月29日午前11時ホノルルから横浜に帰着した大洋丸の客中に「京城帝国大学教授 内藤吉之助」の名あり。)
- ・秦豊吉(1892～1956)「ゴシツプ」欄中「森れじな君」『読売新聞』昭和7年3月31日(木)朝刊4頁(上記広津和郎記事への回答)

昭和10(1935)年

- ・『朝鮮人事興信録』(朝鮮人事興信録編纂部、昭和10年4月1日刊)329頁(復刻本:『韓国 近現代史人名録 4』(ソウル・驪江出版社、1987年7月27日刊))
(この他、朝鮮刊行の人名録として、『朝鮮人名録 朝鮮年鑑附録』(京城日報社、各年度版)等あり。)(追記:平成19年12月18日)

昭和17(1942)年

- ・ゾーム(1841～1917)著、久保正幡(1911～2010)・世良晃志郎(1917～1989)訳『フランク法とローマ法—ドイツ法史への序論—』(岩波書店、昭和17年4月15日刊)凡例(訳者による内藤教授に対する謝辞がある。様々な意味で興味深い。)(追記:平成21年2月5日、同27年2月10日追加)

昭和22(1947)年

- ・尾高朝雄(1899～1956)「序」、世良晃志郎(1917～1989)の「あとがき」 エンゲルス著 内藤吉之助訳『家族・私有財産及び国家の起源』(彰考書院、昭和22年2月25日刊、再版:昭和22年9月20日刊、四版:昭和25年6月20日刊)世良「あとがき」によれば、世良教授は内藤教授のことを「私の恩師、故内藤吉之助先生」といつている。また、著者跋も訳者を知る上で貴重である。

昭和23(1948)年

- ・世良晃志郎(1917～1989)『封建制成立史序説』(彰考書院、昭和23年4月10日刊)

扉の次頁に「故 内藤吉之助先生の尊霊に捧ぐ」とあり、「序」の末尾には「謹んで本書を元京城大学教授故内藤吉之助先生の御尊霊に捧げ、私が大学在学中以来先生から受けた御高恩に対して心から感謝の意を表し、併せて故先生の御冥福を祈る次第である。昭 23.2.1」とある。ただし、世良教授の回顧録を収載する福大史学（福島大学）第 31 号（「私の学問遍歴」、昭和 56 年 2 月刊）や法学第 49 巻第 1 号（「私の学生時代」、昭和 60 年 4 月刊）には記載されていない。

昭和 26（1951）年

・旗田巍（1908～1994）『朝鮮史』（岩波全書、岩波書店、昭和 26 年 12 月 15 日刊）（文献解題）（「岩波全書セレクション」の一冊として復刊、平成 20 年 2 月 28 日刊）（追記：平成 20 年 8 月 12 日）

昭和 30（1955）年

・永富撫松遺稿、今田哲夫訳註『訳註 春及廬詩藁』（鹿島守之助、昭和 30 年 9 月 20 日刊）（永富撫松：鹿島氏尊父敏夫氏、1864～1913、今田哲夫：1898～1994）
・矢野峰人（1894～1988）「仮名匿名」『イソラベラ』（Isola Bella）第 5 号（昭和 30 年 10 月 20 日）⇒後掲「(4)『イソラベラ』と内藤吉之助教授」参照。

昭和 31（1956）年

・西谷弥兵衛（1914～1968）『鹿島守之助伝』（日本財界人物伝全集第 12 巻、東洋書館、昭和 31 年 8 月 1 日刊。鹿島守之助：1896～1975）79、80 頁（「森れじな」のことに言及。後、『鹿島守之助経営論選集別巻 1 鹿島守之助伝』（鹿島出版会、昭和 50 年 3 月 20 日刊）61 頁）

昭和 33（1958）年

・鹿島守之助（1896～1975）『春及廬随談一わが思想と行動一』（岩手放送、昭和 33 年 12 月 15 日刊、鈴木彦次郎氏（1898～1975）との対談をまとめたもの。）37 頁（内藤教授のことに言及）。後、『わが回想録一思想と行動一』（鹿島研究所出版会、昭和 40 年 4 月 10 日刊）32 頁、『鹿島守之助経営論選集第 12 巻 わが回想録一思想と行動』（鹿島研究所出版会、昭和 50 年 1 月 20 日刊）24 頁に再録。（平成 29 年 9 月 6 日一部修正）

昭和 34（1959）年

・柳田國男（1875～1962）『故郷七十年』（神戸・のじぎく文庫、昭和 34 年 11 月 20 日刊）本書はその後各種の版があるが、最近のものでは、例えば『柳田國男全集 21』（筑摩書房、平成 9 年 11 月 20 日刊）がある。この中で、柳田と関係のあった「播州の青年」のことに言及しているが、鹿島守之助氏及びその従兄の岡田要（1891～1973、動物学者）氏のことが出ている（同書 220 頁参照）。

・高橋俊人（1898～1976）「内藤先生のことども一法輪院進阿即生居士に一」『藤嶺文学』第 17 号（昭和 34 年 3 月 1 日刊、藤嶺学園藤沢高等学校文芸部雑誌。平成 18（2006）年秋に復刻予定との由で、その前に下記ネットに掲載された。⇒ただし、既述のように『藤嶺文学』復刻版には収録されず（令和 5（2023）年 2 月 5 日追記）。）。ここにいう「内藤先生」とは、内藤教授の令弟内藤進一郎氏（？～1958、大正 9（1920）年 3 月東京美術学校本科卒業）のことであるが、内藤教授のことにも詳しい。

〈<http://sky.geocities.jp/ityou2/bungaku.html>〉（平成 19 年 12 月 12 日閲覧。ただし、平成 20 年 11 月 23 日現在では削除か（かなり前から未確認状態であった。）。平成 21 年 3 月 18 日現在でも同様。令和 5（2023）年 1 月 26 日原本を確認）

昭和 39（1964）年

・鹿島守之助（1896～1975）「私の履歴書」『私の履歴書 第 22 集』（日本経済新聞社、昭和 39 年 11 月 25 日刊）221 頁で内藤教授のことに言及、その後、同『私の履歴書』（鹿島研究所出版会、昭和 39 年 12 月 20 日刊）11、12 頁に再録。同稿は、更に『私の履歴書 経済人 7』（日本経済新聞社、昭和 55 年 9 月 2 日刊）281 頁、『私の履歴書 昭和の経営者群像 2』（日本経済新聞社、平成 4 年 9 月 25 日刊）92 頁等に転載されている。また、鹿島守之助『創造の生活』（鹿島研究所出版会、昭和 43 年 6 月刊）、『鹿島守之助経営論選集第 13 巻 創造の生活』（鹿島出版会、昭和 50 年 2 月 20 日刊）18 頁にも再録。

昭和 40（1965）年

・鹿島守之助（1896～1975）『わが回想録—思想と行動—』（鹿島研究所出版会、昭和 40 年 4 月 10 日刊）15 頁（内藤教授のことに言及）の内容は上記『春及廬随談—わが思想と行動—』（岩手放送、昭和 33 年 12 月 15 日刊）と同じ。なお、追記あり。

昭和 41（1966）年

・朝鮮史研究会・旗田巍（1908～1994）編『朝鮮史入門』（太平出版社、昭和 41 年 11 月刊）（（改装第 1 刷）昭和 45 年 11 月 30 日刊 256 頁）
・安倍能成（1883～1966）『我が生ひ立ち—自叙伝—』（岩波書店、昭和 41 年 11 月 28 日刊）561 頁（追記：平成 21 年 3 月 18 日）

昭和 43（1968）年

・永富家編集委員会『永富家』（鹿島研究所出版会、昭和 43 年 11 月 1 日刊）5、111、114、169 頁
（ネット「永富家」〈<http://www.kct.ne.jp/~kshimizu/nagatomi.htm>〉参照。）

昭和 44（1969）年

・旗田巍（1908～1994）編『シンポジウム・日本と朝鮮』（勁草書房、昭和 44 年 1 月 30 日刊）52 頁

昭和 45（1970）年

・『定本 柳田國男集』第 27 巻（新装版、筑摩書房、昭和 45 年 8 月 20 日刊）27 頁（山島民譚集（1）河童駒引）（後掲『柳田國男全集』第 2 巻参照。）（追記：平成 20 年 8 月 12 日追加）
・『定本 柳田國男集』第 30 巻（新装版、筑摩書房、昭和 45 年 11 月 20 日刊）449 頁（「民族」雑篇、「北方文明研究会の創立」）（後掲『柳田國男全集』第 26 巻参照。）（追記：平成 20 年 8 月 12 日）

昭和 46（1971）年

・田鳳徳著、渡辺学・李丙洙訳『李朝法制史』（北望社、昭和 46 年 2 月 25 日刊）原著者序文 i、16、70、71、220、361（清宮四郎（1898～1989）「跋」）頁
原著者序文 i：「・・・、著者がまだ若かった学窓生活の当時、京城帝国大学法文学部故

内藤吉之助教授（法制史担当）から直接指導を忝くし、緻密な考証による感化を賜ったことは、終生これを忘れることができない。」

なお、原著は『韓国法制史研究（暗行御史他六編）』と題し、ソウル大学出版部より刊行されたものとの由。（平成 29 年 12 月 13 日追加）

〈https://www.jstage.jst.go.jp/article/jalha1951/1973/23/1973_23_243/article/-char/ja/〉

昭和 47（1972）年

・「座談会 経済史研究とその国際交流—社会科学研究所 25 年間の回顧とともに— 語り手 高橋幸八郎、聞き手 稲本洋之助、潮見俊隆他」『社会科学研究所』第 24 巻第 2 号（高橋幸八郎教授還暦記念号、昭和 47 年刊。高橋幸八郎：1912～1982。154 頁に世良晃志郎教授の城大関連記載あり。）（令和 2 年 4 月 16 日追加）

昭和 49（1974）年

・『京城帝国大学創立五十周年記念誌 紺碧遙かに』（京城帝国大学同窓会、非売品、昭和 49 年 10 月 30 日刊）（口絵に内藤教授の小照あり。戸沢鉄彦（1893～1980）「京城帝国大学創立五十周年にあたって」（109 頁）、田川孝三「京城帝国大学法文学部と朝鮮文化」（155、156 頁））（一部補正：平成 19 年 12 月 18 日、平成 20 年 1 月 17 日）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/12110138>〉（令和 8（2026）年 1 月 11 日追加）

昭和 50（1975）年

・鹿島守之助（1896～1975）『鹿島守之助経営論選集第 12 巻 わが回想録—思想と行動』（鹿島研究所出版会、昭和 50 年 1 月 20 日刊）24 頁（内藤教授のことに言及）の内容は上記『春及廬随談—わが思想と行動—』（岩手放送、昭和 33 年 12 月 15 日刊）と同じ。（平成 29 年 9 月 6 日追加）

・鵜飼信成（1906～1987）「京城の八月十五日」『法学セミナー』昭和 50（1975）年 8 月号（第 242 号）（『法学者・法律家たちの八月十五日』（日本評論社、令和 3（2021）年 7 月 15 日刊）68～73 頁（68 頁）に再掲）〈<https://www.nippyo.co.jp/shop/book/8587.html>〉（令和 5（2023）年 2 月 26 日追加）

昭和 52（1977）年

・木村毅（1894～1974）「文学少年としての鹿島さん」『鹿島守之助追懐録』（鹿島守之助追懐録刊行委員会編集、昭和 52 年 12 月 3 日刊）84～87 頁（「森れじな」のことに言及）

・永富きよ「若き日の兄を偲ぶ」『鹿島守之助追懐録』（鹿島守之助追懐録刊行委員会編集、昭和 52 年 12 月 3 日刊）331～335 頁（「森れじな」のことに言及）

昭和 54（1979）年

・岡正雄（1898～1982）『異人その他 日本民族＝文化の源流と日本国家の形成』（言叢社、昭和 54 年 12 月 1 日刊）「岡正雄 年譜」482 頁「大正 14 年（1925）27 歳 4 月、神奈川県藤沢町鶴沼に転居。当時鶴沼在住の田辺寿利、内藤吉之助、何思敬君らと日夜交友す。」（『異人その他 岡正雄論文集』（岩波文庫、平成 6 年 11 月刊）には収録されていない。）（追記：平成 21 年 11 月 15 日）

昭和 62 (1987) 年

・岩野英夫 (1944～) 「わが国における法史学の歩み (1873-1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」 『同志社法学』第 39 卷第 1・2 号 (第 200 号記念論集 I、昭和 62 年 7 月 31 日刊) (225～312 頁) <<https://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>>

昭和 63 (1988) 年

・柳田国男研究会編著『柳田国男伝』 (三一書房、昭和 63 年 11 月 30 日刊、別冊ともで 2 冊) 728、731、743 頁 (追記: 平成 20 年 1 月 11 日)

平成 2 (1990) 年

・松岡磐木 (1919～1995) 「父松岡静雄のこと」 『沖縄文化研究』 (法政大学) 第 16 号 (平成 2 年 3 月 20 日刊) 83-96 頁 (92 頁に内藤吉之助教授関係の記載あり。) (追記: 平成 20 年 1 月 10 日)

・『第七高等学校造士館同窓会会員名簿 平成 2 年』 (七高同窓会、平成 2 年 10 月 25 日刊) 101 頁 (内藤吉之助: 大正 4 年第 12 回卒業 171 名、独法科、兵庫、東大法) (追記: 平成 20 年 8 月 12 日)

平成 7 (1995) 年

・久保正幡 (1911～2010) (報告) 「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」 (法制史学会東京部会第 170 回例会、平成 7 (1995) 年 12 月 26 日 (火) 午後、於早稲田大学。中田薫博士 (1877～1967) と横田正俊氏 (元最高裁長官、1899～1984) ・内藤吉之助教授との関係についても特に言及されたと仄聞する。) (平成 30 年 8 月 29 日追加)

(参考) 警察政策学会資料第 115 号警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題—川路大警視研究を中心に— (第二輯) —武藤誠氏・加藤晶氏・福永英男氏・戸高公德氏追悼記念論集—【下冊】』 (警察政策学会、令和 3 (2021) 年 5 月 8 日刊) には下記三篇を収録。同学会 HP <<http://www.asss.jp/>> ⇒

<<http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf>> にアップ済。

・「久保正幡先生述「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」メモ (要旨・未定稿)」 (久保正幡先生御遺影掲載)

・松村勝二郎「〈学びつつ老いる〉—久保正幡先生の思い出—」

・「中田薫博士関係資料抄—久保正幡先生御講演の参考として—」 (令和 3 年 11 月 3 日追加)

平成 8 (1996) 年

・高橋菊江 (1925～) 『赤煉瓦の家』 (ドメス出版、平成 8 年 6 月刊) (平成 21 年 3 月内藤丈二先生の御示教に拠る。誌して深甚の謝意を表するものである。) (追記: 平成 21 年 3 月 18 日)

平成 9 (1997) 年

・『柳田國男全集』第 2 卷 (筑摩書房、平成 9 年 10 月 20 日刊) 423 頁 (山島民譚集 (1) 河童駒引) (追記: 平成 20 年 8 月 12 日)

平成 10 (1998) 年

・久保正幡 (1911～2010) 『久保正幡略年譜・主要著作目録』 (製作: 洋販、平成 10 年 10 月 20 日刊) 5 頁 (追記: 平成 30 年 8 月 28 日)

平成 12 (2000) 年

・『柳田國男全集』第 26 卷 (大正 11 年～大正 14 年、筑摩書房、平成 12 年 6 月 15 日刊) 488 頁 (「北方文明研究会の創立」『民族』第 1 巻第 1 号 (大正 14 年 11 月 1 日刊))、同 615 頁 (同書解題) (追記: 平成 20 年 8 月 12 日)

平成 14 (2002) 年

・研究代表者岩野英夫 (1944～) 『法学教育における法史学の存在価値—わが国における法史学の成立と展開との関連で—』平成 11 年度—平成 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 研究成果報告 (平成 14 年 3 月刊) (註: これには、前掲岩野英夫「わが国における法史学の歩み (1873—1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号 (昭和 62 年 7 月 31 日刊) 〈<https://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>〉の修正版が収録されている。)

平成 20 (2008) 年

・通堂あゆみ「京城帝国大学法文学部の再検討—法科系学科の組織・人事・学生動向を中心に—」『史学雑誌』第 117 編第 2 号 (平成 20 年 2 月 20 日刊) 67 頁「【表 2-1】法科系講座担当者キャリア」 (追記: 平成 21 年 3 月 31 日)

平成 23 (2011) 年

・佐々木研一朗「東京帝国大学法学部助手に関する一考察—大正期を中心に—」『政治学研究論集』(明治大学) 第 34 号 (平成 23 年 10 月刊) 283 頁 (平成 29 年 3 月 10 日追加) 〈https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/17553/1/seijigakuronshu_34_275.pdf#search=%27%E5%86%85%E8%97%A4%E5%90%89%E4%B9%8B%E5%8A%A9%27〉

平成 26 (2014) 年

・酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』(ゆまに書房、平成 26 年 2 月 25 日刊) 122、368、369 頁 (平成 26 年 5 月 27 日追加)

平成 30 (2018) 年

・CD 版『ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十三輯) — 明治警察史雑纂 (第四輯) — 日本統治下台湾警察史雑纂 (第八輯) —』(平成 30 (2018) 年 1 月 1 日刊。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり。「内藤吉之助教授略年譜・著作目録」(改訂稿・第二十三次補正稿) を収録。) (令和 2 年 4 月 16 日追加)

〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I028881423>〉

・「内藤吉之助教授について—略年譜、著作目録抄、その他—」『法史学研究会会報』第 21 号 (岡野誠先生退休記念号、平成 30 年 3 月 26 日刊) 119～125 頁 (平成 30 年 8 月 30 日追加)

・稲福日出夫 (1950～2024) 「(資料) 佐喜眞興英の大学在学時の同窓生たちに関する覚

え書—内藤吉之助、中川善之助、奥野彦六郎などの点描— 『南島文化』第 40 号（沖縄国際大学南島文化研究所紀要、平成 30 年 3 月 30 日刊）161～176 頁（佐喜眞興英：1893～1925、中川善之助：1897～1975、奥野彦六郎：1895～1944）（平成 31 年 4 月 23 日追加）
〈<https://okiu1972.repo.nii.ac.jp/records/1013>〉（URL: 令和 8（2026）年 1 月 11 日追加）

平成 31/令和元（2019）年

・稲福日出夫（1950～2024）「最終講義録「厳密でない学問の価値」について—これまでの研究テーマを振り返りながら—」『沖縄法学』第 47 号（平成 31（2019）年 3 月刊）255～256 頁（令和 8（2026）年 1 月 11 日追加）
〈<https://okiu1972.repo.nii.ac.jp/records/2824>〉

令和 3（2021）年

・警察政策学会資料第 115 号警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題—川路大警視研究を中心に—（第二輯）—武藤誠氏・加藤晶氏・福永英男氏・戸高公德氏追悼記念論集—【下冊】』（警察政策学会、令和 3（2021）年 5 月 8 日刊）には下記三篇を収録。同学会 HP 〈<http://www.asss.jp/>〉⇒
〈<http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf>〉にアップ済。（令和 3 年 11 月 3 日追加）

- ・「久保正幡先生述「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」メモ（要旨・未定稿）」（内藤吉之助教授関連記載あり。前掲「平成 7（1995）年」の項目参照。）
（久保正幡先生御遺影掲載）
- ・松村勝二郎「〈学びつつ老いる〉—久保正幡先生の思い出—」
- ・「中田薫博士関係資料抄—久保正幡先生御講演の参考として—」

（令和 3 年 11 月 3 日追加）

・鶴飼信成（1906～1987）「京城の八月十五日」『法学者・法律家たちの八月十五日』（日本評論社、令和 3（2021）年 7 月 15 日刊）68～73 頁（68 頁）（初出は前掲『法学セミナー』昭和 50（1975）年 8 月号（第 242 号））〈<https://www.nippy.co.jp/shop/book/8587.html>〉
（令和 5 年 2 月 26 日追加）

令和 4（2022）年

・『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選第 15 輯—』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊。ただし冊子版は作成できず CD 版のみあり。「内藤吉之助教授略年譜・著作目録」（改訂稿・第二十六次補正稿）を収録。）（令和 5 年 2 月 5 日追加）
〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032127903>〉

令和 5（2023）年

・北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）184 頁 〈<http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html>〉（令和 8（2026）年 1 月 11 日追加）

(4) 『イソラベラ』と内藤吉之助教授

初校校了後、「内藤吉之助教授略年譜・著作目録（初稿）」を、念のため、先に知人に見てもらったところ、① 内藤教授と世良晃志郎教授（1917～1989）の関係がどのようなものであったのかをよく調べてみることに、② 京城における内藤教授のことが出ていたという上記「（3）内藤吉之助教授関連著作」中の『イソラベラ』昭和30年10月号は現物を探索してやはり見ておくべきではないか、との指摘を受けたので、一、二試みてみた。

①については、ここでは省略するが、この問題は、非常に深い意味を有しているやに思われるので、更に探究の要がある⁹。

次に、②の『イソラベラ』昭和30年10月号の件であるが、これは、ネットにある高橋俊人氏（1898～1976）「内藤先生〔進一郎、？～1958、大正9（1920）年3月東京美術学校本科卒業〕のことども一法輪院進阿即生居士に一」（<http://sky.geocities.jp/ityou2/bungaku.html>）、『藤嶺文学』第17号（昭和34年3月1日刊、藤嶺学園藤沢高等学校文芸部雑誌。平成18年秋に復刻予定との由で、その前に上記ネットに掲載された。平成19年12月12日閲覧。ただし、平成20年8月現在では削除されており、その後も見るできない状態にある。⇒（以下令和5（2023）年2月5日追記）既述のように『藤嶺文学』復刻版には収載されず。なお、令和5（2023）年1月26日原本を閲覧）の中の「余談ではあるが、「森れじな」と云う名は、当時の投書家の間では、長く忘れられず、後に文壇知名の人になった矢野峯人（〈マ〉、峰人）、片岡鉄兵、高田浪吉、中村白葉等の人々の記憶に残っていたようである。嘗てアルピニストで、山の詩人でもある藤本九一氏（〈マ〉、藤本九三（1887～1970））が朝鮮旅行した時、京城で歓迎会を催されたが、その折り出席した内藤京城大教授が、昔の森れじな氏の後身であるのを知って、驚きもし、なつかしくも思ったという一文を書いた。それを又矢野峯人（〈マ〉、峰人）教授が読んで、「イゾラベラ」（isola bella）（〈マ〉、『イソラベラ』（Isola Bella））と云う雑誌で紹介して、転々感慨にふけていた。この「イゾラベラ」（〈マ〉、「イソラベラ」）は有名無名の旧文章世界投書家たちだけの雑誌で、その主宰者津端修氏（1895～1980）は、わたくしの友人でもあるので、一昨々年が〈マ〉、国枝完二（〈マ〉、邦枝完二）をたずねて来た時に、拙宅に立ち寄ったので、「森れじなの弟で内藤進一郎と云う人を知っているから、紹介しようか」と云ったら、「是非たのむ」とのことではあったが、ほどなく津端が脳出血で倒れてしまったので、それなりになってしまったのは遺憾である。なお矢野峯人（〈マ〉、峰人）氏の書いた文の掲載されたのは、「イゾラベラ」（〈マ〉、「イソラベラ」）の昭和三十年十月号である。」との記述による。

このことにより、なんとでも「イゾラベラ」昭和30年10月号を読みたいと思ったが、「イゾラベラ」でネット検索をしてもヒットしなかったため、上記知人に聞いたところ、イタリア語では isola は「イゾラ」と濁るが、いずれにせよ、「isola bella」（美しい島）のことであるので、「イソラベラ」で再度検索してみてもと教えてもらった。これで、漸

⁹ 世良晃志郎教授は当時の朝鮮とも関係があるようなので、あるいは内藤教授との関連もそのあたりからとも思われるが不詳。（令和5（2023）年2月26日追記）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%96%E8%89%AF%E6%99%83%E5%BF%97%E9%83%8E>

く当該号所蔵機関を一箇所見つけ、読むことが出来た次第である。知識貧困にして、「イゾラベラ」だけで引いていて、検索できず、全くお粗末なことであった¹⁰。

この結果、高橋俊人氏がいらっしゃるの、矢野峰人博士（本名：禾積（かづみ）、1894～1988）「假名匿名」『イゾラベラ』(Isola Bella) 第5号（昭和30年10月20日刊）の冒頭部分（4～6頁）のことであることが判明したが、その内容は、「いつ頃の事であつたか、勿論大戦前の話であるが、登山家として有名な「朝日」の藤木九一氏（〈ママ〉、藤木九三（1887～1970））が書いた随筆の中に、氏が朝鮮旅行の際、京城で催された歓迎会出席者名簿に「森れじな」といふ名前を発見し、それが京城医大（〈ママ〉、京城帝大）某教授の投書家時代の筆名であつたのに驚いた事が記されてゐたのを記憶する。」（4頁）である。

峰人矢野禾積といえ、最近『矢野峰人選集 1 エッセイ・詩・訳詩』（国書刊行会、平成19年6月15日刊）が刊行されたが、三高「行春哀歌」（大正3年作、<http://www2s.biglobe.ne.jp/~tbc00346/component/gyosyun.html>）参照。）の作詞者としても有名な方（例えば同書498～502頁所収の「行春哀歌」、「『行春哀歌』の曲譜」参照。）であり、この一文は、極めて興味深いものがある¹¹。ただ、これでは、やはり藤木九三氏の書いた元の文章の内容がよく把握できないので、藤木氏の著書とか朝日新聞掲載の多数の記事等を探す必要があるが、今回は、ここまでしか出来なかった。次の課題としたい。なお、藤木氏は、昭和9（1934）年12月の京都帝国大学の厳冬期白頭山登山隊に報道部員として参加しているので、まずこのあたりから調べていければと考えている¹²。

以上、とりとめもないことを誌したが、多くの過誤があることと思うので、御教示の程を切にお願いいたしますものである。

¹⁰ その後矢野博士「假名匿名」は国立国会図書館（<https://dl.ndl.go.jp/pid/1818036/1/4>）で読むことができることを識者から御教示いただいた。今更ながらであるが記載しておく。（令和8（2026）年1月10日追加）

¹¹ 台湾時代の矢野峰人氏について、小林信行（1937～）『島田謹二伝 日本文学の横綱』（ミネルヴァ書房、平成29年7月25日刊）、同『島田謹二 このアポリヤを解決する道はないか』（ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、令和3年8月10日刊）各参照。（令和3年11月3日追加）

¹² （本件についての平成20年8月12日追記）

白頭山登山に関し藤木九三氏の書かれた文献を、その後二、三渉猟したが、遺憾ながら現在まで発見できていない。『朝日新聞』、『週刊朝日』（例えば、「冬の白頭山遠征」（第26巻第30号、昭和9年12月30日刊、15頁）がある。）、『文藝春秋』（例えば、「白頭山遠征所感」（第13年第3号、昭和10年3月1日刊、37、38頁））では、「森れじな」との邂逅のことは確認できない。これらよりすると、あるいは、白頭山登山の際ではなく、別の機会だったのかも知れない。更に調査したい。

（下記追加：令和4（2022）年1月18日追記）

京都帝国大学白頭山遠征隊『白頭山 京都帝国大学白頭山遠征隊報告』（梓書房、昭和10年9月5日刊）（<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1213499>）には、京城での歓送会等の記載がある。

[参考 1] 「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の件

本稿作成に当たり利用できた皓星社〈<http://www.libro-koseisha.co.jp/>〉の「明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引データベース」の無償公開は、平成 20 (2008) 年 3 月 31 日で終了し、同年 7 月 1 日より新たなものに移行したという。本件についての皓星社のお知らせ記事は、下記のとおりである。データベースは、この種資料作成上寔に貴重なものであるので、ここにも、掲載させていただくこととする。(〈<http://www.annex-net.jp/ks1/>〉に拠る。)。なお、『日本経済新聞』平成 19 年 12 月 16 日「フロントライン」も参照。

① (平成 20 年 8 月 19 日追加)

〈<http://www.libro-koseisha.co.jp/sinbun/n071216.jpg>〉

「お知らせ 「明治・大正・昭和前期雑誌記事データベース」の無償公開は 2008 年 3 月末日で終了いたしました。4 月 1 日 (マ) から「雑誌記事索引集成データベース」としてサービスを開始します。「雑誌記事索引集成データベース」は、戦前期の「明治・大正・昭和前期雑誌記事データベース」に、国立国会図書館の「雑誌記事索引」および岩田書院等の協力で『地方史文献年鑑』などの地方雑誌のデータを搭載しています。これによって明治から現在まで、全国誌から地方誌までをワンストップで検索することができます。また国立情報学研究所の WEBCAT との連携で掲載誌の所蔵機関を同時に表示します。データは過去の資産(目録、索引、総目次など)を活用しているため、訂正・追加の必要がありますが、これらの修正、一次資料との照合、追加入力、一次資料からの採録などエンドレスに作業を続けて参ります。修正や追加の情報をお持ちの方にはご協力をお願いいたします。

詳しくは下記にお問い合わせください。

所属機関の図書館または居住する地域の公共図書館

丸善株式会社 epro-j@maruzen.co.jp

株式会社皓星社 <http://www.libro-koseisha.co.jp/>」

② (平成 20 年 11 月 23 日再追加)

〈<http://www.annex-net.jp/ks1/>〉

「「明治・大正・昭和前期雑誌記事データベース」無償公開は 2008 年 3 月末日で終了いたしました。7 月 1 日から「雑誌記事索引集成データベース」としてサービスを開始しました。

■明治初期から現在まで

国立国会図書館 (NDL) の「雑誌記事索引」は、昭和 23 年以降現在までを収録する邦文雑誌記事のデータベースです。ところが、この「雑誌記事索引」は、それ以前の記事は検索できません。

皓星社では、それを補うため過去における雑誌記事索引類を集大成して『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』(120 巻)を刊行。雑誌記事索引集成 DB は、この『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』を基に作成されました。

今後、あらゆる目録、総目次を追加入力して、過去に刊行された全ての雑誌に掲載された記事の検索を可能にすることを目指します。また、国立国会図書館の「雑誌記事索引」のファイルを完全搭載しますので明治から現在までの雑誌記事がシームレスに検索できます。

■総合雑誌から地方誌まで

国立国会図書館の「雑誌記事索引」では、地方で刊行された多くの雑誌類が採録の対象になっていません。これらの地方誌にも多くの重要な記事・論文が掲載されています。先進的な県や市では地元発行の雑誌や地元を対象とした記事のデータベースを作成公開してい

ます。しかし、地方の情報もそれぞれの県や市に限られるのではなく、全国誌から地方誌を横断した検索のできるデータベースの出現が待たれていました。

皓星社では、地方史研究協議会はじめさまざまな機関・個人の協力を得て、地方誌の論文・記事、総目次などの入力を開始しこれらの検索を可能にしました。これによって、全国誌から地方誌までの雑誌記事がシームレスに検索できます。

■記事検索から所蔵情報まで検索しても目的の記事を手に入れるためには、雑誌の所蔵情報が必要です。そのため国立情報学研究所 (NII) の協力で、検索結果と同時に NII の Web cat の検索結果および国立国会図書館 (NDL) の OPAC の検索結果を表示。これによって、国立国会図書館および全国の大学等の当該雑誌の所蔵状況をワンストップで知ることができます。

■新旧字対応を可能にする独自の用語集

雑誌記事索引集成 DB は、明治から現在まで 150 年近い期間と、さまざまな目録を一つにまとめるものですので、用字用語の変遷に対応する独自の用語集を構築しています。したがって、たとえば「蘇聯」「ソ同盟」「ソウエート」なども「ソ連」、「加奈陀」も「カナダ」と入力することで検索できます。雑誌『白樺』では、ゴッホは「ゴオホ」と表記されていますが、ゴッホと入力すれば、「ゴオホ」もヒットします。これは今後も改良を重ねます。データは過去の資産（目録、索引、総目次など）を活用しているため、訂正・追加の必要がありますが、これらの修正、一次資料との照合、追加入力、一次資料からの採録などエンドレスに作業を続けて参ります。

修正や追加の情報をお持ちの方にはご協力をお願いいたします。

詳しくは下記にお問い合わせください。

所属機関の図書館または居住する地域の公共図書館

丸善株式会社 epro-j@maruzen.co.jp

株式会社皓星社 <http://www.libro-koseisha.co.jp/>」

③ (平成 21 年 3 月 18 日再々追加)

〈<http://info.zassaku-plus.com/#cate2>〉

〈<http://www.maruzen.co.jp/home/irn/econtents/catalog/zassaku/zassaku.html>〉

④ (平成 22 年 9 月 15 日再々追加)

上述のように、皓星社「雑誌記事索引集成データベース」は、更に内容の充実が図られたが、それに伴い、事業化された。

・「雑誌記事索引集成データベース」

〈http://pro.maruzen.jp/ln/ec/ec_kousei01.html〉

〈<http://zassaku-plus.com/authorize.php>〉

問題は、同データベースが、大学図書館とか研究所は別にして、しばらくの間、何故か、国公立の図書館にほとんど入らず、市井の人間には簡単に利用できなかったことである。しかしながら、漸く、本平成 22 (2010) 年 4 月に、東京都立中央図書館が初めて導入し、次いで、正式な日付は不明であるが、国立国会図書館でも導入されたようである (平成 22 年 8 月 25 日閲覧済)。これで、一般の者でも、自由に検索できることと相成った。いずれにせよ、今後は、プリント対応をも含めて、如何に効率よく整理できるかが鍵となるものと思われる。(平成 22 年 9 月 15 日追加)

⑤本 HP 別稿「ローマ法・法制史関係冊子版主要文献目録一覧 (二訂稿)」(平成 18 (2006) 年 10 月 1 日アップ、逐次改訂中) 参照。(平成 22 年 10 月 16 日追加)

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/bunkenmokuroku.pdf>〉

(平成 22 年 10 月 16 日追加)

⑥現在は「雑誌記事索引集成データベース(ざっさくプラス)」として有料公開されている。

〈https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=http%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F〉(平成 29 年 9 月 6 日追加)

〔参考 2〕「国立国会図書館サーチ(開発版)の公開」の件(平成 22 年 9 月 15 日追加)

平成 22(2010)年 8 月、「国立国会図書館サーチ(開発版)」が公開され、著作等の検索が、飛躍的に便利になった〈<http://iss.ndl.go.jp/>〉。更なる利用が望まれる。(参考:「国立国会図書館サーチ(平成 22 年 8 月 17 日開発版)の公開について」(2010 年 8 月 17 日)〈<http://iss.ndl.go.jp/information/2010/08/releasenote/>〉)
(平成 27 年 2 月 10 日追加) ⇒現在では「国立国会図書館サーチ」〈<http://iss.ndl.go.jp/>〉を参照。

〔参考 3〕「国立国会図書館のデジタル化資料」の件(平成 24 年 3 月 5 日追加)

平成 23(2011)年 7 月、「国立国会図書館のデジタル化資料」が公開され、一層利便性が増した。(平成 27 年 2 月 10 日追加) ⇒現在では国立国会図書館〈<http://www.ndl.go.jp/>〉「電子図書館」参照。

(下記、令和 4(2022)年 7 月 5 日追加)

- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス(個人送信)(令和 4(2022)年 5 月 19 日開始)
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉

(了)